

# 自殺のない『生き心地の良い社会』をめざして

ライフリンクは、自殺対策という「生きる支援」「いのちへの支援」に取り組んでいます。

「いのち」をつなぐ  
総合力



## 提言力

「自殺総合対策のグランドデザイン」や「自殺対策地域ネットワーク」、「自死遺族支援ガイドライン」等、ライフリンクが活動現場から発信している具体的提言は、国や地方自治体、関係機関等の政策に広く反映されています。

## リンク力

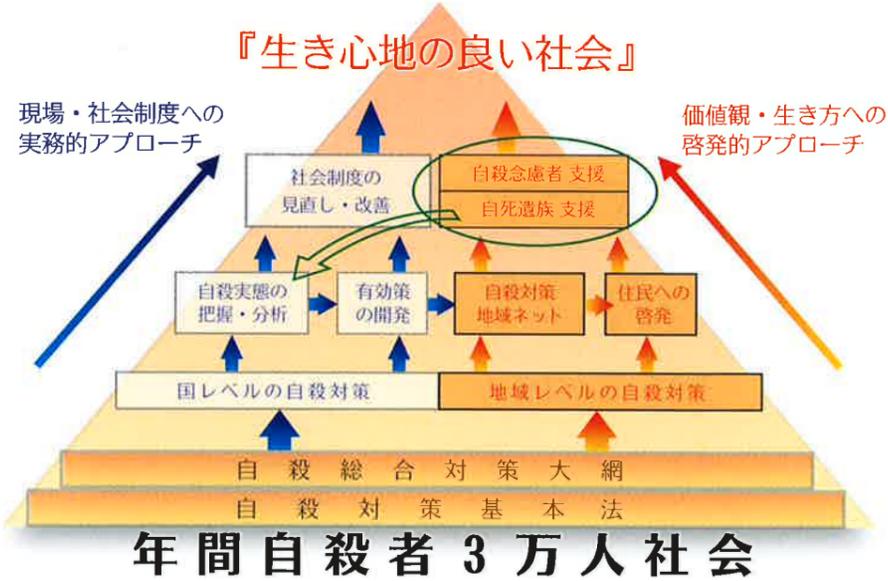
法律の専門家や医療関係者、マスコミや議員、行政や民間団体、文化人や遺族等、さまざまな立場の人たちが理念を共有して協働するためのプラットフォームを構築し、いのちを支えるための「新しいつながり」を創り出しています。

## 解決力

「新しいつながり」を戦略的に創り出すことによって、多様で複雑な現場のニーズにも柔軟かつ迅速に対応できる粘り強い「解決力（状況の変化に応じて対策を講じながら問題を解決にまで導いていくチカラ）」を生み出しています。

## 行動力

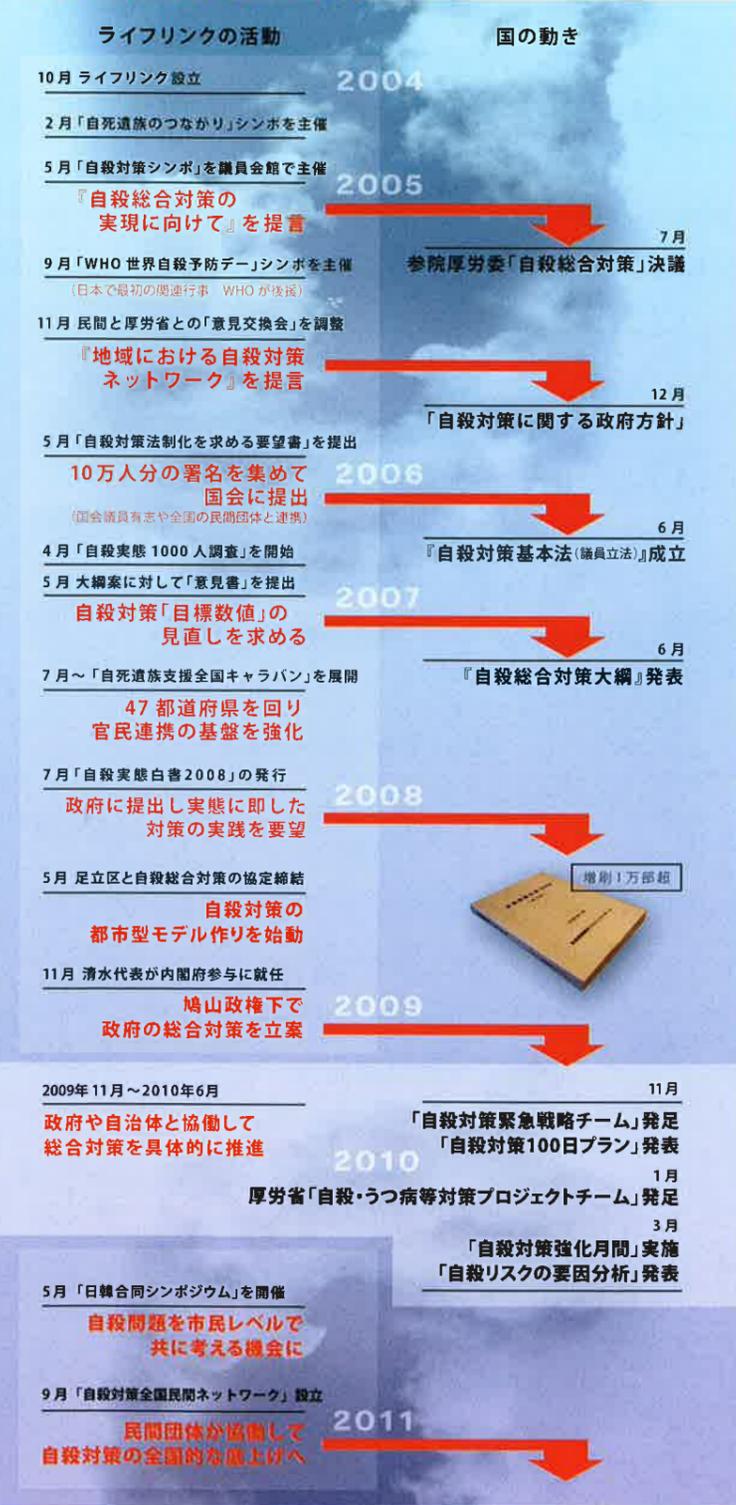
自殺総合対策の枠組み作りや、自殺問題をテーマにしたシンポジウムの開催。「自死遺族のつどい（分かち合いの場）」の立ち上げ支援、自死遺族の個別相談等。自殺対策の「新しい解決力」として、ライフリンクは自ら行動しています。



自殺総合対策 推進モデル  
(グランドデザイン)

自殺対策の新時代を切り拓く  
推進力

ライフリンクの活動が、日本の自殺対策を動かしていく。



自殺対策の必要性を社会に伝えていくことも、ライフリンクの重要な活動のひとつです。

### 報道掲載実績

’08年…240回 ’09年…416回 ’10年…527回 全国紙・地方紙合計  
その他 テレビ・ラジオ・雑誌掲載など多数

2005年2月16日 朝日新聞



2005年3月22日 朝日新聞



2006年4月17日 毎日新聞



2009年11月28日 地方各紙（共同通信）



2010年9月11日 秋田魁新報など



## 今後の課題：「自殺総合対策大綱」の改定を踏まえて

NPO法人自殺対策支援センターライフリンク

代表 清水康之

### 大綱の項目

- ① 1. 自殺の実態を明らかにする取組 (6) 既存資料の利活用の推進
  - 1) 「地域における自殺の基礎資料」を、市区町村ごとに表にして見やすい形で公表すべき
  - 2) 自殺統計を既存の公表基準に従い、「年代×性別×職業」等も市区町村単位で公表すべき
- ② 1. 自殺の実態を明らかにする取組 および 7. 自殺未遂者の再度の自殺企図を防ぐ
  - 1) 自殺未遂者支援のために、「自損事故による救急搬送」の統計資料を活用すべき(秋田市)
  - 2) 救急病院が保有する「未遂者統計」を、地域(自治体)との連携推進に活用すべき(荒川区)
- ③ 7. 自殺未遂者の再度の自殺企図を防ぐ
  - 1) 自殺未遂者支援に関する先駆的取組事例を、都道府県や市区町村に対して広く紹介すべき
  - 2) 自殺未遂者支援を行う際に必要な、「本人承諾書」等をフォーマット化(汎用化)すべき
- ④ 5. 適切な精神科医療を受けられるようにする
  - 1) 全レセプトデータを提供する厚生労働省のデータベースを活用して、「過量服薬」や「薬漬け」の背景にあるとされる「多剤処方している医療機関」や「複数の医療機関から処方して薬を集めている患者」の実態を地域ごとに解明し、その上で、然るべき対策に取り組むべき
  - 2) 抗うつ薬の副作用をテーマにした米映画が今月6日から日本でも上映されるが、日本でも薬の副作用は社会的にも非常に関心が高い問題。
- ⑤ 6. 社会的な取組で自殺を防ぐ (13) 報道機関に対する世界保健機関の手引きの周知
  - 1) 先月22日に起きた「女性歌手の自殺」に関して、その報道が与えた影響を検証すべき(少なくとも、その日以降の日別の自殺者数が過去と比較してどう変化したか/しなかったか)
  - 2) 過去の自殺報道に関する検証結果も含めて、報道機関に「自殺報道ガイドライン」の策定を積極的に呼びかけるべき
- ⑥ 若年層の自殺対策(生きる支援)
  - 1) 自殺の0次予防として、「生活上の困難・ストレスに直面したときの対処方法(ライフスキル)を身に付けることへの支援」が、新しい大綱に盛り込まれた。これは、例えば借金を抱えた時や職場でパワハラにあった時に、どう対処すればいいのかを、学校とつながりのある段階で教えることを目的としている。その後、この施策の進捗はどうなっているのか。

以上